

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 20 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530622

研究課題名(和文) 芸術労働の実態と制度に関する社会学的研究

研究課題名(英文) A sociological study for condition and institution of art work

研究代表者

吉澤 弥生 (YOSHIZAWA, Yayoi)

共立女子大学・文芸学部・講師

研究者番号：20513162

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本とイギリスの文化政策の専門機関の制度比較と、過去の調査対象者含む計23名へのインタビュー調査を行ない、3冊めとなる現場労働者へのインタビュー調査報告書『続々・若い芸術家たちの労働』を制作した。日英では政策方針の転換という共通の状況がある一方で、公的機関従事者や多様な立場の人々の、職務内容、労働条件、社会保障、さらにキャリア形成の仕方などの相違が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：To understand realities of art workers, I researched current cultural policies of Japan and England, then issued interview report "The work environment of young artists" which included 23 cases. Japan and England is a similar situation for the change of cultural policy, but has difference in the point of job contents, working conditions, social security and career development of art workers.

研究分野：芸術社会学、文化社会学

キーワード：アート 労働 文化政策 アーツカウンシル

1. 研究開始当初の背景

現在、国内では芸術をとりまく社会的状況が大きく変化している。都市や里山を舞台にした大規模な国際芸術展が開催されたり、各地の自治体でまちづくりや観光の文脈に芸術を位置づけて芸術文化事業が展開されたりしている。さらに芸術をコミュニケーション教育の一環に取り入れたり、福祉施設での制作活動が広がるなど、教育や福祉との関係も深まりつつある。これらは(1)美術館からその外へ、(2)鑑賞から参加へ、(3)完成品の展示から制作プロセスの重視へとといった要素を包含しながら、「アートプロジェクト」の広がりとして顕在化している。

このような「芸術の社会化」は、文化政策の進展、企業メセナの浸透、アートNPOなどを通じた市民活動の広がり軌を一に進行している。そして現場では、アーティスト、キュレーター、マネージャー、アートNPOスタッフやボランティアなどが多様な実務を担ってきた。

しかし、政策基盤の脆弱さに由来する不安定な事業計画と予算、行政と市民セクターの実質的な「協働」の困難といった諸問題のために現場は混乱をきわめ、現場を作り出す芸術労働者たちは長時間労働や低賃金、有期雇用といった厳しい労働環境に置かれている。こうした状況に対し、研究代表者は平成21～22年科学研究費補助金若手研究スタートアップ「アートプロジェクトの事例にみる芸術労働の社会学的研究」の中で日本各地で24名、ロンドンで9名、パリで4名に対してインタビューをおこなった。そしてそれらを、『若い芸術家たちの労働』(全72ページ、500部)としてまとめ全国各地に配布した。

続く2012年3月には所属していた大阪大学GCOE「コンフリクトの人文学」の研究費をえて国内31名へのインタビューを実施、『続・若い芸術家たちの労働』(全80ページ、500部)を発行、問題意識の共有と議論の土台づくりに努めてきた。

2. 研究の目的

本研究は、そうした過去のインタビューデータと考察をふまえつつ、様々な芸術労働者の労働環境を明らかにし、文化政策の問題、また現代日本の若年者の就労・社会保障の問題として考察することを目的として進められた。なかでも日本とイギリスの芸術労働者へのインタビューを通して、その働き方、生き方の実態を明らかにすると

ともに、今後の日本の文化政策の方向性を示し、また芸術労働者の実態を通して芸術の公共性、雇用や社会保障に関する課題を提示することを目指すものである。

3. 研究の方法

日本とイギリスの現場の実務を担う雇用労働者(非常勤、派遣など日本の場合ほとんどが非正規雇用である)およびフリーランスの人々へのインタビューを行なった。その際、これまでの対象者の継続調査も実施し、キャリア形成の方法も追った。

あわせて、両国の文化政策ならびに「アーツカウンシル」のしくみの違いについても文献や資料を通して分析を進めた。両国の文化芸術分野の人材育成の考え方、社会保障のあり方なども考察した。

そして収集したインタビューは報告書として公開し、問題意識の共有と議論の土台づくりに活用した。なおインタビューは原則匿名とするため、個人情報の扱いには十分配慮した。

4. 研究成果

まず、雇用労働者に対するインタビューでは、不安定な労働状況のもとで疲弊するケースだけでなく、自ら交渉し条件を変更していこうとするケースもみられた。またフリーランスに分類されるアーティスト、キュレーター、自主スペース運営者などへのインタビューからは、自営と雇用の中間形態、あるいは労働者性「なし」とされながらも限りなく「あり」に近い就労形態の実態が語られた。彼らの語りからは、芸術という「仕事」に対する意識の違いとともに、日本とイギリスの社会保障の違いも明らかになった。これは文化政策の基盤の脆弱さという問題だけでなく、社会全体で進む非正規雇用の割合の増大とも関連しているよう。

さらに芸術文化の準公共的専門機関「アーツカウンシル」に相当する組織で活動する人々へのインタビューからは、ニュー・パブリック・マネジメントの広がりの中での現場従事者の奮闘とともに、両国の芸術文化の公共性をめぐる認識の違いも明らかになった。

これら調査結果は、2013年度末に3冊めとなる現場労働者へのインタビュー集『続々・若い芸術家たちの労働』(全68ページ、500部)として発行、その成果を関西社会学会をはじめ各地のシンポジウム

などで報告し、討論に参加した。また最終年度である 2014 年度になると、本研究が主たる対象としているアートプロジェクトとは異なる分野、演劇やダンスなど舞台芸術分野の研究者や現場のスタッフの人々から、労働実態や文化政策に関するレクチャーの機会も増加した。他分野の実演家や研究者による問題意識の共有と議論の土台が進んでいるといえよう。

また最終年度には、5 名のアーティストに対するインタビューを行ない、そのテキストと考察を NPO 法人アート NPO リンクが受託した文化庁の委託事業「平成 26 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」報告書『アート NPO データバンク 2014-15 アート NPO によるアーティスト・イン・レジデンス事業の実態調査』内に掲載 (pp.63-90) こちらも全国各地に配布された。

さらに、国内で整備が進む「アーツカウンシル」のモデルとなったイギリス各地 (リバプール、マンチェスター、ブリストル) に赴き、各地のアーツカウンシルの事業内容を調査した。地域による違いだけでなく、2020 年の東京オリンピックに向けて文化政策が担うこととなる役割と、それを遂行するためのしくみに関する資料収集も行ない、現場の労働レベルからの政策立案の必要性を確認することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

吉澤弥生 (寄稿記事)「芸術の『境界』は今 ―フェスの背後 過酷な労働」毎日新聞大阪版夕刊 2014 年 10 月 23 日(査読なし)

吉澤弥生「大阪の現代芸術事業の周辺で起きたこと」『上方芸能』191 号 (2014 年 3 月号) pp.3-6、上方芸能編集部 (査読なし)

吉澤弥生「文化政策と、グラスルーツからの応答」『くらしと協同』2013 年夏号、pp.12-17、くらしと協同の研究所 (査読なし)

吉澤弥生「グラスルーツと文化政策」『現代思想』2012 年 5 月号、pp.150-159、青土社 (査読なし)

〔学会発表〕(計 13 件)

(招待講演)吉澤弥生「芸術の権利」芸術の現実、シンポジウム「生活者としての

アーティストたち」、アーティスト・ギルド主催、於東京都現代美術館、2015 年 2 月 22 日

(招待講演)吉澤弥生「芸術と労働の公共性を考える」、文化庁大学等活用事業 geidaiRAM オープンレクチャー vol.6、於東京藝術大学、2014 年 12 月 15 日

(招待講演)吉澤弥生「人材育成からキャリア形成へ ―舞台芸術創作現場の雇用・労働環境を考える」、舞台芸術制作者オープンネットワーク、於こどもの城、2014 年 9 月 25 日

(招待講演)吉澤弥生「アートのお仕事、これからの働き方を考える。」、「ha na so vol.14」、於デザイン・クリエイティブセンター神戸、2014 年 9 月 14 日

(招待講演)吉澤弥生「思想を深める 想像を広げる」、「思考と技術と対話の学校」、東京文化発信プロジェクト (東京都 / 東京都歴史文化財団) 於アーツ千代田 3331、2014 年 7 月 6 日

吉澤弥生「若い芸術家たちの労働」、第 65 回関西社会学会大会若手企画部会「文化労働と労働文化」、於富山大学、2014 年 5 月 25 日

(招待講演)吉澤弥生「『日本型アートプロジェクトの現在 -1990~2012 年』を読む」、東京文化発信プロジェクト (東京都 / 東京都歴史文化財団) 於アーツ千代田 3331、2014 年 1 月 22 日

(招待講演)吉澤弥生「アートの労働について」、六本木クロッシング展、於森美術館 (港区) 2013 年 12 月 23 日

(招待講演)吉澤弥生「記録と調査を設計する」、東京文化発信プロジェクト (東京都 / 東京都歴史文化財団) 於アーツ千代田 3331、2013 年 12 月 14 日

(招待講演)吉澤弥生「大阪の現状」、公開コロキウム「経済システムの中の芸術」平成 23~25 年度科学研究費補助金 基盤研究 (A)「社会システム 芸術 とその変容」(代表者長田謙一) 於首都大学東京、2013 年 3 月 2 日

(招待講演)吉澤弥生「地域アートプロジェクトを批判的に検討する」、「第 2 回前橋映像祭」、於ヤーギンズ (前橋市) 2012 年 12 月 2 日

(招待講演)吉澤弥生「他の理解、異文化の理解」、「混浴“学生”世界」、「別府ア-

トマンス」於プラットフォーム 01 (別府市) 2012年10月14日

(招待講演) 吉澤弥生「都市とアートプロジェクト」 「エノコジマ・クリエイティブ・カフェ」於大阪府立江之子島文化芸術創造センター、2012年6月14日

〔図書〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉澤 弥生 (YOSHIZAWA YAYOI)
共立女子大学・文芸学部・専任講師
研究者番号：20513162

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし